



リポーター
安井 佳奈

特集3 地域おこし協力隊レポート「湯前音頭」

踊り継がれる湯前愛

「ホンニ、ホンニ湯前ヨ
 カところ、ソーレよか
 ところ」。

一度聞いたら頭から離れず、思わず口ずさんでしまう湯前音頭。その出会いは、私が湯前小学校の運動会を見に行ったときのことでした。児童はもちろん、保護者や地域の人も、ほとんどの人が踊っている光景を見て驚きました。歌を聞いていると、歌詞に「横谷峠」や「城泉寺」など町の名がちらほら聞こえてきます。だれもが知っている湯前音頭。一体どのような歴史があるのでしょうか。タイムスリップしてみました。

町民が作った46の歌詞

湯前音頭ができたのは今から38年前。グリーンパレスや町民グラウンドの完成記念と明るい町づくりの一環として、町民だれもが親しめる音頭調の歌が作られました。

歌詞を考えたのは、なんと湯前町民。「自分が考えた歌詞が町の歌になるかもしれない」とのことです。46作品もの応募があり



現在、町民全員で踊るのは年1回の町民体育祭。多くの人が踊りを受け継いでいる



湯前音頭が初めて披露された昭和55年の盆踊り大会。寺本さんの生歌に合わせて浴衣に着がえた3000人が音頭を踊った

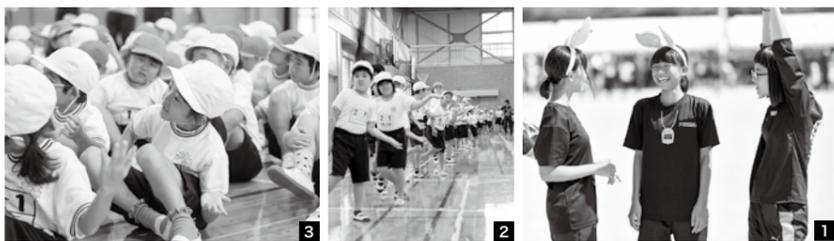
初披露の盆踊りに3000人

初めて町民に披露されたのは、同年8月19日に湯前駅前広場で開かれた盆踊り大会。湯前音頭を歌った、歌手の寺本さみさんを招き、会場に集まった人はなんと現在の人口の4分の3に相当する3000人。湯前音頭を披露する寺本さんの歌声に会場は大盛り上がり。湯前音頭や六調子音頭などの歌にあわせて、婦人会が中心となり踊りが繰り広げられました。

その後、町民体育祭や各地区の盆踊り大会などで踊られ、町民に親しまれていきました。

みんなが通る道

湯前音頭は今でも踊られています。疑問に思うことが一つ。なぜ、多くの人が踊れるのでしょうか。答えは小・中学校の運動会で練習をするからです。初めて本格的に湯前音頭を踊る1年生。しっかりと伝統を受け継ぎます。2年生以上のほとんどの児童が振り付けを覚えているのだとか。中学生ともな



1町民体育祭で仮装して踊ると得点に。いつもと違う格好に笑い合う子どもたち
 2運動会の練習で湯前音頭を踊る児童たち。みんなが踊れる秘密は小・中学校にあった
 3最初に座って振り付けを確認する



教育委員会に保存してある新品のレコード。パッケージには湯前の風景も描かれている

ました。審査員は青年団、婦人会、老人会などの町の団体や学校の教師、生徒などの代表10人。審査の基準は①町の特徴を表した②簡潔で覚えやすいもの③明るく希望をもてるもの④語路が整っているもの⑤音頭風のもの⑤の五つ。

今も役場に残っている応募作品を見てみると、どれも湯前らしきものがあふれるものばかり。季節によって変わる町の景色や祭りの風景、球磨川、潮神社といった町にかかわる単語がならんでいました。最終的に故高嶋八千代さん(馬場の作品)が選ばれ、昭和55年2月末に湯前音頭が誕生しました。

ると、生徒が教師に教えるぐらい完璧に踊れるのだそうです。音楽が鳴れば、子どもから大人まで踊れる湯前音頭は、町民だけに通じる、合い言葉のようになっています。

受け継ぐ心のよりどころ

湯前がぎゅっと詰まった町の音頭。応募された作品の多くに「湯前良か処こたい」「湯前ヨカヨカ、ヨカトコバイ」などといった、湯前愛を感じられるフレーズが入っていました。当時と比べると、道やお店、イベントなど大きく変わっているところもあります。しかし、今も変わらない踊りが懐かしい思い出を引き出してくれるのではないのでしょうか。

当時の広報ゆのまに載っていた一文。「この『町の歌』を歌い続けることによって、湯前町民としての心の寄りどころとなることでしょう」(原文ママ)。今もみんなに愛されている湯前音頭。これからも歌い、踊り続けていきたいですね。

特集 踊り継がれる湯前愛(完)